



目次

1. 巻頭言
2. 令和3年度 開放型登録医療機関紹介
3. 看護師特定行為研修を終了して
4. ～味巡りの旅～始めました
5. 編集後記



国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻頭言 メッセージーRNA ワクチンについて

2019年末に中国武漢で始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、翌2020年にはパンデミックとなった。日本でも同年4月に緊急事態宣言が発出された。

それから2年が過ぎ、計5回の感染拡大を経て多くの人的被害と経済的損失を来しながら今もくすぶっている。しかし最近の第5波を振り返ると、明らかに何か違う。患者さんの中心は高齢者から若年者に移った。患者さんは中等・重症者もおられるが軽症の方が増えた。また第5波の終わりには今までになく感染者が減った。もちろんこの減少は日本人の几帳面な性格と三密を避ける努力の結果であろう。と、共にワクチンが行き渡ったからである。当初、ワクチン開発には4-5年ばかりと言われていたが、それが1年で済んだ。原因である新型コロナウイルス(SARS-Cov-2)に対する特異的メッセージーRNA ワクチンが発明されたおかげである。

メッセージーRNAは中学生でも知っている。遺伝子DNAから蛋白質製造のため、リボゾームに送られる設計図だ。メッセージーRNAの上にペプチドが順序よく並ぶことで蛋白質が出来上がる。出来た蛋白質は細胞外に出て機能を発揮する。もしコロナウイルスを識別する蛋白質のメッセージーRNAを細胞の中で機能させられれば、出来た蛋白質が細胞外に出現し、免疫系が感作されてコロナウイルスを攻撃することが可能となる。しかしこれまで人為的にメッセージーRNAを細胞内に入れても蛋白質が合成されることはなかった。それを可能としたのが2005年のカタリン・カリコ氏の発見だった。彼女はメッセージーRNAの一部を変更すると細胞内での蛋白質合成が無事に実行されることを見いだした。

このような基礎研究が出来ていたので、今回の降ってわいたような新型コロナ感染症にもいち早く応用できたのである。これは夢のようだ。今後、小頭症を引き起こすジカ熱や、耐性菌の問題が出ているマラリア、致死率の高いエボラ出血熱などあらゆる恐ろしい病原体のワクチンに応用されるそうである。癌治療にも使えるかも知れない。また蛋白質の欠損による様々な病気にも応用される技術だと考えられる。私の専門とする神経難病でも様々な試みが成されるかも知れない。このような研究が安全かつ有効に末永く利用されていくことを願いたい。

当院でも患者さんや地域の方々、医療従事者の方々にワクチンの個別接種をすることが出来た。当院がこのワクチンを通して皆様の安心に役立てたことは何よりの喜びである。ただし最近ではコロナワクチンの効果が長続きしないこと、変異株には感染防御能力が低いことが指摘されている。このため国では第3回目のワクチン接種を予定している。当院はこれからも積極的に関与し協力していきたい。

この感染症もそろそろ3年目かという感慨がある。早く終息することを願ってやまない。



院長
塩屋 敬一

令和3年度 開放型登録医療機関紹介

加納中央医院

院長 中村 典生 先生

〒889-1605

宮崎市清武町加納甲 1911 番地 2

TEL : 0985-85-6215 FAX : 0985-85-6216

標榜診療科：内科、消化器内科(胃腸内科)
外科、肛門外科



私は加納中央医院 中村典生と申します。前の市郡医師会会長を3期6年やっていました。

医師会会長を退任してからは医師会の会議や”もようしもの”には全く参加していません。新しい執行部には気を使って欲しくないからです。

さて国立病院宮崎東病院には色々とお世話になっています。航空身体検査（航空大学の校医もやっていますので）で16チャンネルの脳波検査を受けていた医院が（1日3人から2人にしてくれ）と言ってきました。航空大学の方からはどうかして3人の検査をしたいと言われている時に、宮崎東病院に当医院のスタッフが依頼に行ったところ快諾してもらいました。誠にありがとうございました。

また、私の義母が貴病院に入院した時も丁寧な看護と全ての職員のすれちがう時のご挨拶には感動しました。私の加納中央医院の病棟はすでに閉鎖して年月が既に大分経過しましたが、病棟があった時に患者さんやご家族の方々にこちらから挨拶したりする事はありませんでした。今になって後悔しています。このような立派な病院体制を変わずに運営している塩屋院長をはじめスタッフの方々に深く敬意を表するものであります。

それはそうと私は軽飛行機の操縦を趣味としていましたのでよく宮崎空港には行っていました。宮崎空港のすぐそばにある宮崎東病院にもよく顔を出していました。松林に囲まれた綺麗な病院でした。駐車場では勝手に職員用の駐車場に停めたり、ずっと奥の方の海と滑走路の見える所までドライブしたりしてきれいな海と飛行機の離着陸を眺めていました。そして（俺の愛機 beechcraft A36 はどんな時にも宮崎空港には離着陸できるとのプライドと自信）を持つ様になりました。そして自信過剰のまま take off して悪天候の中に墜落しました。そしてヘリコプターで救助されました。しかし受け入れてくれる緊急病院がなかなか見つかれず結局県立宮崎病院になりました。



※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成16年9月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入院への不安が軽減されます。現在、104医療機関の先生方にご登録いただいております。

派遣応援ナースを終えて

私は2011年にがん化学療法看護認定看護師となり、当院のがん化学療法の体制整備や院内教育等に携わってきました。認定看護師10年目を迎え、特定行為研修受講のきっかけとなったのは、化学療法を受ける患者は、「がん」だけを患っているのではなく、多くはその他の併存疾患を抱えており、非常に複雑な病態となっているが、的確に病態変化を捉えることができない自分に、もどかしさを感じるようになったことでした。

5階病棟
がん薬物療法看護
特定認定看護師
村上 純子

また、当院は、神経筋難病分野別拠点病院であり長期療養病棟を有しています。自施設の機能として、高齢慢性疾患患者及び神経筋難病患者に対する地域の根幹的な医療機関を目指す事を踏まえ、在宅・慢性期領域における看護力の向上や、認定看護師としての経験を基盤に、更に視野を広げた知識・技術が必要になるのではないかと考え、2020年、看護師特定行為研修を受講しました。受講に当っては、看護部は元より、病棟スタッフの温かい支援や組織のバックアップにより、集中した環境の中で学ぶことができ、2021年3月、在宅慢性期領域パッケージの特定行為4区分（気管カニューレの交換、胃瘻カテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃瘻ボタンの交換、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、脱水症状に対する輸液による補正）を修了し、がん薬物療法看護特定認定看護師となりました。

研修においては、フィジカルアセスメントと臨床推論の学びが大きかったことから、研修後は医学的視点を踏まえたフィジカルアセスメントや医師への報告、適切な看護ケアの実施など、特定行為実施の有無に関わらず看護実践の中でロールモデルになれるよう、カンファレンスでケアの方法を検討したり、スタッフと意見交換を図るように取り組んでいます。

また、副看護師長としての実践や夜勤を行いながら、毎週水曜日に特定看護師として活動を行っています。活動日には、特定行為実践のための院内体制整備と並行して、教育担当看護師長の支援を受け、主治医指導の元、手順書に基づいた特定行為の実践を積んでいます。

現在、気管カニューレ交換、胃瘻チューブ交換については、院内トレーニングを修了し手順書に基づいた実施ができるようになりました。引き続き残り2区分（褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、脱水症状に対する輸液による補正）についても指導医のもと院内トレーニングを積み、年度内のトレーニング修了を目指しているところです。

今後の展望として、①特定行為の実践においては、認定看護師としての知識や経験をベースに知識・技術を高められるよう研鑽を積む ②がん薬物療法中の患者に対するタイムリーな補液の実施で、脱水や腎障害の予防や副作用マネジメントを行う ③気管カニューレや胃瘻チューブ交換、褥瘡処置が必要な患者においては、行為の実施に目が行きがちであるが、その行為が『看護の延長にあること』を常に意識してケアをする」を掲げ、安全でより良いケアが病棟スタッフと一緒に実践できるようにしていきたいと考えています。



～味巡りの旅～はじめました

栄養室
管理栄養士
内村 麻希

当院では、入院中でも季節を感じて頂けるよう季節ごとの行事やイベントにちなんだ食材を取り入れ、月3回程行事食を提供しております。今年度より行事食のひとつとして新たに取り組みを始めた“味巡りの旅”についてご紹介いたします。

コロナ禍で、旅行や外食をする機会が減り、入院患者さんに病院食を通して旅行気分を味わって頂き楽しんでもらいたい、郷土料理や全国各地の名物料理などといった、いつもと違うメニューで食欲アップしてもらいたいと思い企画しました。

委託調理スタッフと献立や食材の調整、盛り付け等のイメージを打ち合わせし6月に和歌山県からスタートし沖縄県、長野県、京都府、福井県、香川県と巡っております。月1回の提供ではありますが、47都道府県を巡る予定です。さまざまな角度から「おいしさ」を感じて頂きたいと思い、毎回お品書き、料理の説明、その土地の観光名所の写真などを記したカードを作成し料理に添えて提供しています。

患者さんからは、「病院でこんな料理が食べられるなんて嬉しい」、「今日は全部食べられた」「旅行した時に食べた、懐かしい」など非常に反響が大きく、また検食される方からも好評頂いております。

今後も、治療の一環としての栄養のみならず、心まで栄養する食事提供を目指し、食事満足度向上に向けた取り組みを委託調理スタッフと連携し行っていききたいと思います。

～沖縄県～



～長野県～



～京都府～



～和歌山県～



編集後記

今年は夏の暑さが続いているなと思っていたら一気に秋本番になってきました。昨年、今年とコロナ禍で県外移動自粛となり、帰省やイベントなどへ出かけられない日々を過ごしています。そんな中、夏にある美術展へ出かけてきました。美術館の開館時間が夜まで延長してくれたので仕事帰りの夕方に密にならず、のんびりたっぷり閲覧することができました。少しずつでも日常が戻ってくるのを楽しみに今年の冬を乗り切ろうと思っている今日この頃です。(編集委員 A)

